

今日から始めるSDGs

実はすでに取り組んでいる!? SDGsは身近な存在

「SDGs」という単語に接する機会が増えてきましたが、その具体的な内容まで理解されていますか？今さら聞けない！とお考えの皆さまに、今回はSDGsの概要と県の登録制度を紹介いたします。

◎取材協力 (公財) 栃木県産業振興センター 産業振興部 新産業育成グループ

193カ国参加の 国連決議でスタート

「SDGs」という言葉をご存じですか？アルファベット4文字の組み合わせ、大文字と小文字が混じったこの言葉は、一般に「エスディージーズ」と発音されています。これは「Sustainable Development Goals」の略で、意味は「持続可能な開発目標」です。

2015年、国連総会で、参加した193カ国の合意により「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(以下「アジェンダ2030」)がまとめられました。このアジェンダにうたわれているのが、SDGsです。

環境省が発行しているパンフレット「すべての企業が持続的に発展するために(第2版)」では、SDGsについて次のように説明しています。

活動が、企業活動の余力で行われているケースが多いことに対して、SDGsは企業活動そのものにコミットしているのです。

SDGsはいずれも大きな問題を扱っているため、大企業はともかく中小零細企業に

「とちぎSDGs推進企業登録制度」



図1 SDGsロゴマーク



(公財) 栃木県産業振興センター
全ての企業が持続的に発展するために環境省HP

「SDGsとは(中略)社会が抱える問題を解決し、世界全体で2030年を目指して明るい未来を作るための17のゴールと169のターゲットで構成されています。(中略)SDGsの根幹にある『持続可能な開発』とは「将来世代のニーズを損なわずに、現代世代のニーズを満たす開発」のことをいいます。SDGsにはあらゆる分野における社会の課題と長期的な視点でのニーズが詰まっているということです」

私たちは、石油資源の枯渇や温暖化現象、異常気象、プラスチックごみなど廃棄物の急増、貧富格差の急激な拡大、国家や人種間の対立など、個人の善意や各国それぞれの努力だけでは解決できない多くの課題に直面しています。世界が協力して解決への道を進もうというのが「アジェンダ2030」の主旨であり、SDGsの理念なのです。

とつては、縁遠いものと考えてはいませんか？また、自社でも取り組みたいが何から手を付ければいいのか分からないという経営者もいると思います。

そんな経営者にお勧めしたいのが栃木県の「とちぎSDGs推進企業登録制度」です。事業の概略を、実務を行っている(公財) 栃木県産業振興センターのウェブサイトを参照してご紹介します。

この登録制度の目的について、「栃木県内企業等におけるSDGs推進の機運を醸成するとともに、SDGs達成に向けた企業の主体的な取組を促進し、企業価値の向上及び競争力の強化を図るため、登録制度を創設します」とあります。SDGsに取り組み企業やこれから取り組もうという企業が、この制度に登録することで、次のメリットがあります。

- 1 チェックリストを使用して、企業活動とSDGsとの繋がりが整理できる
- 2 重点的な取り組みを「宣言」することで、対外へ発信できる
- 3 県ホームページ等でも公開し企業PRにできる
- 4 セルフチェックを行うことで意識的に取り組める

特に2の「対外的な発信」や3の「県ホームページで公開」など、外部(取引先や顧客など)へのアピール強化は、発信力が課題になりがちな零細中小企業にとって、活用するメリットがあります。

4のセルフチェックには、サイトからリストをダウンロードすることができます(図2)。これを使うことで、手軽に、自社の取り組みを決めることができます。

チェックリストの中には「人権差別をしない」「パワハラ・セクハラをしない」「省エネに取り組む」「法令を遵守する」など既に一般的に取り組まれているものもたくさんあります。



企業活動に 密接に関わるSDGs

「さまざまな問題を抱えていることは分かったが、それが経営とどう結びつくのだろうか？」こんな疑問をもつ人も多いでしょう。

図1はSDGsの17のゴールをロゴマークにしたもので、最近は何にする機会が増えてきたのではないのでしょうか。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」など、いずれも分かりやすい言葉ですが、これは「アジェンダ2030」に掲げられた正式の目標を簡略化したものです。正式には「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」など、具体的な言葉で書かれています。

これらのゴールを達成するために、それぞれに複数のターゲットが設定されています。「極度の貧困を終わらせる」「小規模食料生産者の農業生産性と所得を倍増させる」「女性に対する差別を無くす」など、詳細な問題設定をしており、読むだけでも「私たちはいまだどんな問題に直面しているか」を理解することができます。

詳細な内容については、上記「すべての企業が持続的に発展するために(第2版)」など、政府が発行しているガイドブックをご参照ください。(7PにQRコードを掲載) また、昨年後半頃からSDGs関連書籍も書店に並ぶようになってきていますから、併せて読んでいただくと良いでしょう。

具体的にゴールやターゲットを見ていくと、それらの多くが経営に密接に関わっていることが分かります。

しかし、これまでもさまざまな社会貢献活動を行ってきた企業にとつては、それらとSDGsがどう違うのか、分かりにくいかも知れません。

これまでの社会貢献活動の多くは、企業が本来の活動の他にを行うもの(例えば地域の清掃、行事への参加など)をイメージすると思います。しかしSDGsは、企業活動そのものに深く関係しています。ターゲットの中にも「開発重視型の政策を促進し、中小零細企業の設立や成長を奨励する」「小規模製造業等の、金融サービスや市場等へのアクセスを拡大する」「企業に持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する」など、ビジネスに直結するものが数多くあります。従来の社会貢献

カテゴリー	SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項	3目標項目			維持レベル
		環境	社会	経済	
1	【差別の禁止】 - 性別、年齢、人種、出身などによる差別がないことを確認している	○	○	○	基本
2	【ハラスメント禁止】 - セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制が整備されている	○	○	○	基本
3	【労働時間】 - 過度な長時間労働が行われていない	○	○	○	基本
4	【外国人労働者】 - 外国人労働者の差別、人権侵害がないことを確認している	○	○	○	基本
5	【労働安全衛生】 - 作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境が整備されている	○	○	○	基本
6	【メンタルヘルス】 - 労働者のメンタルヘルスを良い環境で維持できるように施策を実施している	○	○	○	基本

図2 「とちぎSDGs推進企業登録制度」でダウンロードできるチェックリスト

名称だけ見ると難しそうなSDGsですが、実際には企業活動の中ですでに実施していたり、達成しているターゲットもたくさんあります。

当所でも本制度への登録を検討しており、さらに当所企業経営委員会でもSDGsについて調査研究を進めています。

今、話題のSDGs。まずは知るところからスタートしてはいかがでしょうか。

申請に関する問合せ
(公財) 栃木県産業振興センター
産業振興部
新産業育成グループ
TEL.028-670-2608